

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

ACTA UROLOGICA JAPONICA

Vol. 34, No. 10 October 1988

泌尿器科紀要

第34巻 第10号 1988年10月

【原著】

- 進行性尿路腫瘍に対する Interleukin 2 (IL-2) による治療……………原 眞・ほか…1693
 進行性尿路上皮癌に対する化学療法の治療成績……………小松原秀一・ほか…1697
 泌尿器科疾患における尿中ポリアミン測定の臨床的意義……………松田 稔・ほか…1703
 尿路結石再発に関する臨床的検討 (5)結石組成と
 尿 pH 日内変動および結石構成物質の尿中排泄の関係について ……村山 鉄郎・田口 裕功…1711
 経皮的腎尿管結石摘出術の腎機能に及ぼす影響
 —^{99m}Tc-DTPA Renoscintigram による検討— ……坪井 成美・ほか…1717
 Ciclosporin の腎毒性に関する研究
 第2報: Ciclosporin および Sulfamethoxazole-Trimethoprim 合剤
 併用投与によるラットの腎毒性について……………朴 勺・ほか…1723
 ドブラ断層法による移植腎血流評価 (英文) ……秋山 隆弘・ほか…1733
 腎嚢胞に対する経皮的 povidone iodine 注入療法 —臨床成績の検討— ……篠田 育男・ほか…1741
 われわれの *Ureaplasma urealyticum* 検出率について (英文) ……河村 信夫・ほか…1747
 非無菌的間歇的自己導尿法の経験……………平野 昭彦・ほか…1751
 辜丸腫瘍の臨床的観察……………松木 尚・ほか…1757
 ヒト精巣機能に及ぼす高温環境の影響……………並木 幹夫・ほか…1767
 ラットおよびヒト精巣 hCG レセプターの hCG による
 down-regulation ……並木 幹夫・ほか…1771

【症例】

- 経皮的針生検後、術前化学療法を施行した副腎皮質癌の1例……………寺島 保典・ほか…1777
 小腸転移切除とインターフェロンが奏功した進行性腎細胞癌の1例……………宮田 昌伸・ほか…1783
 両側非同時発生腎盂腫瘍の1例……………柴原 伸久・ほか…1789
 腎異物の1例……………曲 人保・ほか…1795
 総腸骨動脈瘤による尿管狭窄の1例:
 本邦報告例の臨床病理学的検討 (英文) ……郷司 和男・ほか…1799
 骨溶解像が主体となった前立腺癌骨転移の1例……………福岡 洋・ほか…1805
 腹部腫瘤を主訴とした前立腺癌の1例……………中川 泰始・ほか…1811
 Chlormadinone acetate が著効を示した
 非特異性肉芽腫性前立腺炎の1例……………米田 尚生・ほか…1815
 原発性男子尿道癌の2例……………桜井 正樹・ほか…1819
 VAB-6 療法により著明な転移巣縮小が認められた両側セミノーマの1例…中嶋 孝夫・ほか…1823
 副辜丸アデノマトイド腫瘍の1例……………本城 充・ほか…1829
 Fournier's gangrene の1例……………米津 昌宏・置塩 則彦…1833

【治験】

- 慢性腎不全患者に対する人参湯合大黃甘草湯の使用経験……………西尾 正一・ほか…1837
 遊走腎症、腹圧性尿失禁に対する補中益気湯の効果……………村上 泰秀…1841
 排泄性尿路造影におけるイオパミロン®370 の使用経験 —アレルギー歴あるいは
 イオン性造影剤による副作用の既往を有する患者に対する有用性— ……近藤 兼安・ほか…1845
 前立腺癌内分泌療法 —LH-RH analogue, ICI 118630 (Zoladex®) と
 去勢術あるいはエストロゲン療法との臨床比較試験— ……宇佐美道之・ほか…1853
 前立腺肥大症症例に対する Astromicin 投与後の
 前立腺組織内および血清中濃度について……………森田 昌良・蓮田 精之…1865

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料 8,000 円 (送料とも) を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都 5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1988年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
 2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、臨床統計、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 総説、原著論文、臨床統計、そのほかの普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
 - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)、図(Fig.)5枚、表(Table)3枚までとする。
 - (3) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなし、清書する。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めに来る場合は大文字)、タイプで明瞭に記載する。
ワープロを使用する場合もB5版原稿用紙に1枚20×20字とする。
 - (4) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名(教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順に和文で記載する。下段に筆頭者名と、2語からなる running title を付記する。
例；山田、ほか：前立腺癌・PSAP
 - (5) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。ワープロ原稿可。
 - (6) 英文原稿はA4版原稿用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文を付記する。
 - (7) 数字はすべて算用数字を使用し、単位は m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C などとする。
 - (8) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1. ..., Fig. 2. ..., Table 1. ..., Table 2. ... などと一覧表にする。説明文は英文を原則とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
 - (9) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文の文脈順に入れる(アルファベット順不可)。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文(ワープロ可)はダブルスペースでタイプする。
例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{8,11-13)}によると...
- 雑誌の場合—著者名(全員)：標題。雑誌名 巻：最初頁-最終頁、発行年
- 例 1) Finney RP, Sharpe JR and Sadlowski RW: Finney hinged penile implant: experience with 100 cases. *J Urol* 124: 205-207, 1980
- 例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, 飛田収一, 大石賢二, 東 義人, 岡田裕作, 川村寿一, 吉田修: 経皮的腎碎石術(PNL)および経尿道的尿管碎石術(TUL)にみられる発熱について。泌尿器科紀要 33: 1357-1363, 1987
- 単行本の場合—著者名(全員)：標題。書名, 編集者名, 版数, 巻数, 引用頁, 発行所, 出版地, 発行年
- 例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: *Urolithiasis Research*. Edited by Fleisch H, Robertson WG, Smith LH and Vahlensieck W. 1st ed., pp.331-334, Plenum Press, London, 1976

例4) 大保亮一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学，診断・治療編。吉田 修編，第1版，pp. 259-301，南江堂，東京，1986

- (8) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残し，オリジナルを書留で送付する。
(原稿送付先)

〒606 京都市左京区聖護院山王町18
メタボ岡崎 301号
泌尿器科紀要刊行会宛

- (9) 論文の採否：論文の採否は編集委員で決定し，連絡する。
(10) 論文の加筆訂正：審査の結果，編集方針にしたがって原稿の加筆，削除，および一部分の書き直しをお願いすることがある。また，編集委員の責任において多少字句の訂正をすることがある。
(11) 校正は初校を著者による責任校正とし，再校以降は編集部が行う。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
(12) 投稿にあたっては，本誌を十分参考にして体裁を守ること。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順を原則とする。
迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算したものを申し受ける。
(2) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
(3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療器械の使用などに関する研究論文(治験論文)については，掲載料を別途に申し受ける。

4. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, the director's name, key words (less than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer•PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details refer to a recent journal.

編集委員： 吉田 修(委員長) 石神 襄次 前川 正信 宮崎 重
新谷 浩 園田 孝夫 友吉 唯夫

泌尿器科紀要 第34巻 第10号 1988年10月25日 印刷 1988年10月31日 発行
発行 吉田 修 顧問 加藤 篤 二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎 301号 電話 (075) 752-0100
FAX (075) 752-0190
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
